横浜市立城郷小学校
明治 33 年６月創立

学校だより

令和５年１０月２０日
１１　月　号

めざす子ども像

ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右の QR コードからもご覧になれます◆

おやの思い

校長　三瓶（さんぺい）　淳（あつし）

今年の秋は、一気に押し寄せて来たという感じです。９月末までは、熱中症対策を取りながら運動会に向けた取組（徒競走のタイム測定や学年演技の練習）を行って来ました。「こんな暑さのまま１０月中旬まで行かれたら、運動会が無事にできるのか？」という不安がよぎりました。しかし、１０月に入ると１日の真夏日を最後に猛暑も収まり、爽やかな秋晴れが続きました。そのお陰で、どの学年も演技の練習が順調に進み、運動会の１週間前までには、他の学年に披露できるレベルに仕上がっていました。

ところが、３連休明け、３学年を中心にインフルエンザにり患した子どもたちの欠席者が増加しました。そこでこれまでの努力が無駄とならぬよう、そして何より運動会に参加できるようにと、３学年２クラスを学級閉鎖としました。いつもなら最後の１週間は、踊り込みや入退場から通して確認する期間です。それが行えない状態で迎えた本番！子どもたちをはじめ、保護者の方々もどのような思いだったのでしょうか。しかし、私たちの不安を払しょくする「花笠音頭」の出来栄えでした。学校に集まって確認できなかった分、休みの間子どもたちは家で練習して演技を磨き、イメージトレーニングしていたそうです。本番では、笠を上手に操り、合いの手の声も大きく、何より学年のみんなと一緒に踊れたことに対して嬉しそうに、満面の笑みで披露していました♪

「笑み」と言えば、子どもたちの笑顔は、どうしてこんなにも『**見ている人を幸せにする**』のかと、事ある度に思っています。普段の学校生活でも感じていることですが、運動会では特にそう感じました。３年生だけでなく、どの学年においても練習最後に行われた演技より、本番が最高の出来栄えでした。原因を考えると、これは保護者の思いに応えようとする真の子どもの姿ではないかと思いました。親がどこにいるかきょろきょろ捜したり、見付けて手を振ったりする姿をよく見かけましたが、その時の輝く笑顔は、何事にも代えがたく、ほっこりする瞬間でした♪

私の両親は中学校教員で、運動会で家族と過ごした思い出は、母と一緒に昼食を摂った記憶しか残っていません。授業参観も「どうせ来ない」という思いで過ごしていました。中学生になると親が学校に来たのは、入学式と卒業式のイメージしかありません。入学式当日は、参列した母から声を掛けられましたが、思春期だったせいもあって不愛想な返しになったことを鮮明に覚えています。そして、卒業式。今ではありえない事ですが、私が３年生になったときに教員として赴任してきたので、母が当たり前のように毎日学校にいました。卒業式は教員として式場にいましたが、最後に正門で並んで写真を撮った時は、親子に戻った瞬間であり、今でも昨日のことのように覚えています。その時は嬉しかったですね。父については後で知ったことですが、生徒指導困難校に勤務することが多く、教職員と夜遅くまで対応を討議したり、土日は部活動指導をしたりしていたようです。とても温かい先生だったと当時の同僚や教え子たちが教えてくれました。母から「お父さんは、（私の）様子をいつも気にしていたよ。」と聞き、親の思い、子知らずだったと振り返るこの頃です。